



TITLE:

[塩]原温泉

AUTHOR(S):

佐藤

---

CITATION:

佐藤. [塩]原温泉. 地球 1924, 2(1): 249-253

ISSUE DATE:

1924-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182691>

RIGHT:

き集塊岩の奇勝あり、西岸には其の口に砂洲又は礫洲を横へたる小灣入の羅列がある。又陸上には新舊幾多の階梯にある火山がある。火山及

海岸の良き觀察地としての伊豆は旅行者の疲勞を癒すべき温泉を神經結節の様に散在せしめて居る。

## 鹽 原 温 泉

佐 藤 生

風光の明媚と温泉の豊富とを以て有名なる鹽原温泉は下野國鹽谷郡の北部に位し、下鹽原、中鹽原、上鹽原、湯本鹽原の四大字より成り立ちて居り皆鹽原火山の北麓である箒川溪谷ノ中にある、但し新湯温泉のみは新湯寒生火山の新湯爆裂火口内にある。大綱、福渡、鹽釜、鹽の湯、畑下、門前、雄卷、古町、新湯、湯本の十ヶ所であつて即ち鹽原十湯と稱するものは是れであつて、其の湧出口は總て四十三を數ふることが出来る。斯の如く多數の湧出口があるのは當該地方の地下の等温線が火山作用の爲めに地

表に近つけるによることは固よりであるが、箒川の溪谷が此の地層の斷層の方向を直交することとは其の主なる原因である云はねばならぬ。大綱温泉は鹽原景勝の地の門戸たる關谷より一里九町にして鹽原温泉場に至るに當り第一に遭遇するところのものである。湧出口は著しきもの二つありて一を石間湯と稱し、一を河原の湯と稱す、共に道路から一町内外の急地を上り箒川の河岸の第三紀に屬する斑綠白色凝灰岩中から湧出する、弱アルカリ性であつて、溫度攝氏五十度硫化水素を多く含み、瘡毒、疥癬に特

效があると稱せられて居る。

福渡温泉は大網から二十七町のところにあつて數十戸の人家相集まりて一小市街を爲して居る。風光も最も明媚で温泉宿も亦頗る宏壯なるものがある。旅館は各自浴湯を室内に設け、温泉の湧出するもの亦甚だ少くない、不動の湯、岩の湯、冷の湯、淡の湯、藥研湯、裸湯はそれ／＼に沐浴するに足る浴槽を備へて居る、矢張り斑緑白色凝灰岩中から湧出し、不動の湯は溫度攝氏四十二度、比重一、〇〇一四、固形物總量一、五四五八、食塩最も多く炭酸石灰これに次くのである。泉質白無色透明で微鹹味を有する。

岩の湯は不動の湯の西北二町餘箒川の南岸から湧出する溫度攝氏四十八度

冷の湯は岩の湯を距ること西に一町餘箒川の北岸から湧出する、溫度攝氏五十度、比重一、〇〇一九固形物總量二、三六三〇、矢張食塩の含有量を多く其の次は炭酸石灰である。

淡の湯は前者と相距る數歩のところにありて

溫度攝氏四十六度成分其の他の性質は略前者に同じ。

其の他裸の湯は溫度攝氏四十五度、藥研の湯は四十度孰れも淡の湯から箒川に沿うて行くこと一町餘の處にある旅館の内湯に引用するは福淵の北方八町餘の鹽釜温泉場に於ける川の南岸から湧出するもので溫度は最も高くて六十五度乃至八十二度を示し弱酸性の反應を呈す、比重は一、五一六〇、固形物總量一、五一六〇、鹽化ナトリウムの含有量〇、六八七五、硫酸石灰〇、三六四〇、炭酸石灰〇、一七〇〇で、導水管から湯泉の漏れるところには長さ一二寸、直徑一寸内外の鐘乳石が往々にして垂下するを見るのである。

鹽の湯温泉場は鹽釜から十町餘のところにあり、泉源は三ヶ所にあり冷の湯（溫度攝氏五十七度）、中の湯（七十三度）、岩の湯（六十五度）流紋岩々脈の裂罅中から湧出する。比重一、〇〇二八で固形物總量、九七二〇の内、鹽化ナトリウムの量二、二二二に達し、名の如く標

式的の食鹽泉である。

畑下は鹽釜の西北四町許にして街道から南に向つて下りたる低地である。溫泉は矢張り白色凝灰岩から五個處に湧出する、元の湯（溫度攝氏五十八度）、鳩の湯（五十五度）、貉の湯（五十八度）、冷の湯（五十七度）、中の湯（六十五度）なり、泉質は無色透明で殆んど無味無臭、比重一、〇〇二五、固形物總量一、四八三〇、鹽化ナトリウム〇、八八三二、炭酸石灰〇、一六三七を含有する弱鹽類泉である。

須卷溫泉は畑下より西山路を登ること七八町源泉は斑縁白色凝灰岩の空隙より湧出し、無色透明にして微に鐵味を帶び比重一、〇〇一一、固形物總量〇、〇七六七の弱鹽類泉で、泉源より六本の木樋を架し、湯は之より飛泉をなして落下するから又瀧の湯とも稱する。

門前溫泉場は畑下戸の北、鹽釜を距ること七八町のところにある。妙雲寺の門前であるが故に取りて名づくるのである。溫泉は四個所に湧出する、自樂の湯（四十八度）、中の湯（五十六

度）、寺の湯一名を我淨泉と云ひ妙雲寺の境内より湧出す（溫度五十度）、河原の湯（五十六度）是れなり。自樂の湯は比重一、〇〇一五、固形物總量一、四八三〇、河原の湯は比重一、〇〇一二、固形物總量一、三二五九、孰れも弱鹽類泉に屬す。湧出地點の地質は前者に同じ。

古町は箒川を隔て、門前と相隣り中に蓬萊橋あり。溫泉は五個所ある。不動湯の溫度で箒川の西岸所謂上第三紀層の岩窟から湧出し、旭の湯は市街の入口箒川の左岸にちて溫度六十度、中の湯は市街の西側中央の處から出で、溫度五十度、角の湯は中の湯から北方十間許りの角にあり溫度五十度、御所の湯は一名鹿の湯と稱し泉源は角の湯に同じ、孰れも無色透明無臭の弱鹽類泉である。

新湯は大字湯本鹽原に屬するので、古町を距ること西南二里餘で別に一小天地をなすのである。所謂新湯爆裂火口内にありて、泥流中から湧出したのであるが今は貉の湯を除くの所に湧出は全く止んだのであるから寛で以て溪水を疏

質噴氣孔中に導き之を温めて温泉となし、更に  
竄して浴槽に導き入浴に便ならしむ多量の硫酸  
を含有し、強酸性である。

塩原温泉は温泉其の物の外に學術上の資料が  
甚だ多い。

第一、材木岩 材木者は福渡の東方約半里の  
處にあつて箒川を横ぎりし存在す、第三紀層中  
に貫入せる脈岩であつて、西部は柱狀節理發達  
して所謂材木岩をなし、東部は板狀節理發達し  
て所謂白雲洞門は之を貫通して居る、岩石は流  
紋岩に非ず、安山岩にあらず、角閃石、玻璃長  
石を粗面岩質の石基中に散點する粗面岩に似た  
る岩石である。

第二、芋石 里芋の形狀をなせる化石で、所

謂下部第三紀層の緑白色凝灰岩中に埋藏さる、  
穿孔介殼の巢の化石である。相伴ふて出る介化

石は *Pectunculus* sp. *Arca* sp. *Pecten* sp. *My-*

*tilus* sp. *Venus* sp. *Cytherea* sp. *Dosinia* sp.

*Lucina* sp. *Ostrea* sp. *Cardium* sp. 等である。

第三木葉石 會津街道に當り箒川に架する八

幡橋を渡り四五町で精進川の支流に合する一溪  
流の左崖から木葉、昆虫、淡水魚類等の化石を  
産する。新第三期時代の湖沼の遺跡であて「ナ  
トホルスト」博士に従へば第三紀の鮮新世の成  
生に掛ると云ふ。地層は黝色又は褐色の泥板質  
凝灰岩で南十度西に走り傾斜は八度乃至十度で  
西東に緩斜するのである。昆虫及び魚類は甚だ  
稀である。

第三、源三の穴 源三の穴は古町の四十町の  
處にあつて温泉沈澱物たる石灰華の中に生せる  
一種の石灰洞窟である。洞の天井から例の如  
く數多の鐘乳石が垂下して居り、床上には石筍  
が屹立して居る、石灰華は概ね粗鬆で空隙に富  
むけれども、時としては緻密で、輻射纖維狀又  
は同心狀の構造を持つて居る。石灰華の中には  
硅藻、*Melania* sp. 平捲介 *Planorbis* 等の  
化石を埋藏して居る、第三紀鮮新層の上を不整  
合に被覆し水平に横はるのであるから洪積期時  
代の温泉の沈澱物である。

第四、新湯温泉の硅華及びアルノーゼン 新

湯温泉の湧出口附近には硅華が多量に存在して居る、硅華には波長又は振幅の種々なる波痕を數多有し、且つ又木葉の印痕あるものがある、硅華の厚さは三尺内外に達し層理は山腹の傾斜に従つて並行して居る。

新湯爆裂火口内の硫質噴氣孔にはアルノーゼンが多く昇華作用によりて成生しつゝある。粗末なる芽にて屋根をふき雨を防ぎ之を採集すること別府の明礬温泉に於けると同様である。矢張之を湯の華と稱して賣り捌きて居る。

## 仙臺附近の温泉

福井薩男

私は職務上一年中の幾週間かを旅行に費して

居る。一週間、二週間、偶には二十日も一ヶ月も旅から旅へと日を送ることがある。

旅行は楽しいものだ。然かも汽車に飽き見物に疲れ用務に急しかつた身體を、綺麗に澄み切つたお湯にザンブと飛び込んだ心地は何ともいへないものだ。身體をお湯に沈めると自分の身體の容積丈けのお湯がザーと浴槽から勢よく流れ出るが一方からは又滾々と綺麗なお湯が流

れ込んで来る。

温泉も場所によつて色々變つた特色がある。山の上の温泉、平野の温泉、溪谷の温泉、海岸の温泉と皆夫れ々の趣きがある。

私は今迄東北地方の温泉を温泉から温泉へと漁つて歩いた。其の中で仙臺から日歸りで行ける二三の温泉について少し書いて見やうと思つて筆を執つた。

熱海温泉